

令和7年度 第3回成田市公民館運営審議会 会議概要

1. 開催日時

令和8年2月5日(木) 午後2時から4時まで

2. 開催場所

成田市赤坂1丁目1番地3

成田市中心公民館 第3・4研修室

3. 出席者

(委員)

高木麻由子会長、重廣悦子副会長、小林孝委員、山谷友美委員

天野義夫委員、多田初枝委員、長澤成次委員

(事務局)

日暮教育長、藤崎教育部参事、菅井公民館長、

池淵事業係長、青野管理係長、田口主査、有坂主査、白石主任主事

4. 議事

(1) 令和7年度公民館主催事業の進捗状況及び令和8年度公民館主催事業について

(2) 令和7年度公民館主要工事等の進捗状況及び令和8年度公民館主要工事等について

(3) 第43回成田市公民館まつりの実績について

(4) その他

① 第47回全国公民館研究集会東京大会の参加報告

② 複合施設視察参加報告

③ 赤坂センター地区複合施設に関する市民ワークショップ報告

④ 中央公民館の開館時間について

⑤ 成田市インターネット市政モニターアンケートの結果報告

⑥ 成田市公民館の個人利用の試行実施(案)について

5. 議事(要旨)

【議事(1)について】

要旨： 令和7年度公民館主催事業の進捗状況及び令和8年度公民館主催事業について説明を行った。その後、次のとおり質疑応答を行った。

(山谷委員)

昨年度の審議会で話題になった日本語教室ボランティア養成講座からボランティア

アスタッフへ繋がることができ良かった。

主催事業をきっかけに新規サークルが誕生したことや、私が講師を務める講座では以前は口コミでの参加が多かったが、最近では市の公式 LINE や保育園からのチラシ、市内のなかよし広場のポスター等を見て参加する方が増え、これまでの取り組みが確実に形になっていると感じる。

また、中央公民館職員の負担が大きく感じられるため、中央公民館で行っている事業を他の公民館の人員で補えればよいと考える。

(事務局)

現状、他館への人員派遣は難しいが、可能な限り地区公民館で事業を開催できるよう検討している。

(長澤委員)

日本語ボランティアスタッフ養成講座は定員 20 名に対し25名の応募があり、実際に23名が受講し、約半数がボランティアスタッフとなった流れは素晴らしい。成田は国際都市で関心のある方が多いと感じる。

令和7年度の事業のうち「19.はじめての方のためのバレエ教室」から新規サークルが立ち上がったことも印象的である。東京都小平市では、主催事業一覧の中で新たにサークルが誕生した事業に別欄へ“○”を付けている。

ほかにも新規サークルが誕生した事業があるか、またサークル誕生時の公民館の支援内容について教えてほしい。

(事務局)

主催講座から誕生したサークルはバレエサークルのみである。「20. 女性のためのナイトヨガ教室」では、3名の受講者がサークルへの参加を希望し、既存のサークルへ加入してもらった。「27. 実用書道教室」は人気が高く、問い合わせのあった落選者へ既存のサークルを紹介した。

バレエサークルには中心となる方へ各館の空き状況や規約作成方法、公民館利用方法の案内等の支援を行った。

(重廣副会長)

新規サークル支援に加え、既存サークルへの支援も継続してほしい。

(事務局)

令和8年度前期開催予定の「14. 組紐教室」については、中郷公民館で活動する組紐サークルから、加入費や材料費等の負担が大きく新規参加のハードルが高い

との相談があり、新規加入者を増やすために今回新規事業として計画した。

(山谷委員)

既存サークル支援の一例として、子育てサークル会員は子どもを抱っこして荷物を持って来館するため、活動のための道具を代表者が保管している状況である。公平性の観点から、毎年抽選等で荷物の置き場があれば、サークル継続の後押しになるのではないか。

(事務局)

活動サークルから荷物保管の相談は多いが、公民館に恒常的な置き場はなく、新たに設ける想定もない。良案があれば改めて相談したい。

(小林委員)

親子体験学習セミナーの対象は小学1年生から3年生とその保護者だが、働き盛りで忙しい保護者や保護者ともっと一緒に遊びたいと考える子どもが多いと考える。こうした講座で子どもと保護者のコミュニケーションが図れることに感謝している。

ヒップホップダンスは、子どもの興味を引く内容だと感じる。公民館が子ども向けの関心を踏まえて企画している点を評価し、今後も青少年教育事業を拡充してほしい。

(天野委員)

応募人数が多く、断っている講座も多いため、傾向を分析したうえで同講座を2日間に分けて開催することができれば参加人数が増えるのではないか。

(事務局)

落選者が多い場合は講座数の増加を希望されることが多いが、講師謝礼の予算制限もありバランスを取ることが難しい。人気講座の開催回数については、年度末等に検討したい。

なお、夏休み親子そば打ち教室は人気が高く、今年度は可能な範囲で回数を増やしている。

今後も予算の範囲内で可能な限り対応したい。

(多田委員)

夏休みこども日本語教室は、3回で延べ参加者5名と少なかった。日によっては1名だったことから、他の講座と組み合わせるなど工夫が必要ではないか。応募が定

員の半分以下であれば中止にするなどして、講師謝礼を応募の多い講座へ配分する方法も検討してはどうか。

小中学校では、日本語の授業は行われているのか。

(小林委員)

学校でも日本語指導は行っているが、生徒数の増加やニーズの多様化により対象言語を教えることが難しい現状である。英語を介して指導すれば良いのではといった意見もあるが、英語が難しい児童もおり障壁となっている。

(多田委員)

日本語教室の需要は高いと感じるが、その割に参加者が少ないため今後の対応方法の検討をしていただきたい。

(事務局)

長期休暇中に子どもがまとまって日本語を学べる機会をという意見から夏休みに設定したが、帰国等で参加を辞退した子どもが3名いたため、来年度は秋頃の開催を予定している。

(山谷委員)

三里塚地区等は外国人住民が多いため、需要の高そうな遠山公民館で開催してはどうか。日本語教室を必要としている外国人に情報が届いていない可能性もあるため、外国人の多く集まりそうな場所へ周知してはどうか。

(事務局)

周知方法と開催時期等を検討していく。

【議事(2)について】

要旨：令和7年度公民館主要工事の進捗状況及び令和8年度公民館主要工事について説明を行った。その後、次のとおり質疑応答を行った。

(重廣副会長)

前回の審議会の方で、中央公民館講堂にある舞台の壁の補修を依頼していたが、公民館まつり前に対応いただき感謝している。

【議事(3)について】

要旨：第43回成田市公民館まつりの実績について説明を行った。その後、次のとおり質疑応答を行った。

(山谷委員)

来場した子どもが様々な作品と触れ合える機会が素敵だと感じた。組紐や籐籠サークルなどの作品のクオリティが高く感動した。

(重廣副会長)

サークルの方々からスタンプラリーの景品をいただいたが、どれもクオリティの高い作品だった。昨年度までは、飲み物の販売を行っていなかったが、今回は実行委員会本部テントでペットボトルの販売を行い、その収益でボランティアとしてスタンプラリーの手伝いに来ていたジュニアリーダーへお礼の品を渡すことができた。また、スタンプラリーで来場者とコミュニケーションを取ることができ良かったと感じた。

(長澤委員)

公民館だよりの表紙に掲載されたサークルはどのようなグループか。

(重廣副会長)

今年度初参加サークルで、本来外の広場での発表予定だったが、雨天が功を奏し、講堂ステージで発表したところ観客で入りきれないほどの盛況だった。

(事務局)

「カラーズ」というダンスサークル。普段は中央公民館で定期的に活動しているサークルで、参加者はおそらく小学校低学年から中学生など幅広い年齢層で構成されている。

【議事(4)①について】

要旨：第47回全国公民館研究集会東京大会の参加について重廣副会長より報告を行った。

(重廣副会長)

11月12日に国際フォーラムで開催された研修へ参加した。公民館で活動している青少年団体「ポコアポコ」というハンドベルのアンサンブルの発表を聴くなど充実した研修だった。

【議事(4)②について】

要旨：神奈川県大和市にある複合施設シリウスの視察について公民館長より報告を行った。

(山谷委員)

当施設の子育て広場の利用料は有料ということで、本市の子育て広場は無料のためありがたいと感じる。今回の公民館使用料据え置きについても、子どもが毎日使用すると考えると例え1日100円だとしても相当な金額となるため、無料で使わせていただけるのは素敵だと思う。

【議事(4)③④について】

要旨：赤坂センター地区複合施設に関する市民ワークショップの実施および中央公民館の開館時間について報告を行った。その後、次のとおり質疑応答を行った。

(重廣副会長)

ワークショップに参加させていただいたが、図書館についての話題がほぼ出なかった。図書館(17時で閉館)での学習コーナーの時間を延長することはできないのか。また、ワークショップの中で大人の学習コーナーの夜間利用のニーズが高く、19時から21時までの中央公民館の学習コーナーの利用率が高いことから図書館での実施も検討してはどうか。

シリウスのような複合施設も素敵だが、建設には莫大な費用が掛かるため、既存施設を改修で対応可能か検討すべきだと考える。利用者から使用料を徴収してまで、新しい建物を作る必要はあるのか。

(山谷委員)

実際の現状は不明だが、中高生は図書館より公民館を好む傾向にあると感じる。毎日、公民館の公式Xで開館情報を投稿するなど、利用者のニーズに答えていただき感謝する。公民館のロビーや学習スペースが中高生の居場所になっているため、安全面や費用面等の懸念事項はあるだろうが、今後も続けていただきたい試みだと感じる。

(事務局)

公民館としては学習コーナー人気に対応しロビーの机椅子の増設、防犯カメラ設置、トイレの電気増設等の改善を行っている。可能な範囲で対応を継続する。

(小林委員)

中高生の 21 時までの夜遅い時間の利用は心配な面も多くあるため、保護者との連携も必要になってくるのではないかと。

(長澤委員)

条例上の開館時間は 9 時から 21 時までとなっているが、現状、17 時以降は各館の使用予約時間に合わせて閉館としている部分については、本市の条例や規則等に記載はあるのか。

(事務局)

明確には記載されていないが、成田市公民館の設置及び管理に関する条例の中に、「教育委員会は、必要があると認めるときは、規定する時間を変更することができる」と記載があることから、年度ごとに教育委員会の承認を得ているような状況である。

(長澤委員)

条例上 9 時から 21 時までとなっているため、13 館すべて条例通り開館することが、防災や防犯面でも市民の安心に繋がるのではないかと。

(事務局)

全館を夜 21 時まで開館するには光熱費や人件費等の負担、夜間職員の体制が整っておらず、万が一不審者が来てしまった場合などの安全面の課題があり、現状での実現は困難である。

【議事(4)⑤⑥について】

要旨：成田市インターネット市政モニターアンケートの結果報告および成田市公民館の個人利用の試行実施(案)について説明を行った。その後、次のとおり質疑応答を行った。

(多田委員)

公民館は団体利用が原則なのか、個人の定義を説明いただきたい。

(事務局)

公民館の条例に使用人数の規定はないが、社会教育法で「組織的な教育活動」と定義されているため、本市では 3 名以上で構成される組織を団体とみなしている。

他市の状況は、資料の通りで、記載のない自治体は人数の定めがないか、本市

と同様の規定である。

(多田委員)

団体として登録する場合は事前届出が必要で、個人利用は届出なく利用できる認識でよいか。

(事務局)

そのとおりである。使用許可基準では、「規則、会則等の定めがある3名以上で構成される組織」を団体と定義しているため、個人利用はこの定義に該当しないものを指す。

(山谷委員)

君津市では個人利用を空き部屋の共有として扱っているが、本市は個人利用者に1部屋単位で貸し出す理解でよいか。

(事務局)

1部屋を占有して使用することを想定している。

(山谷委員)

個人利用のメンバーが将来団体化する可能性を踏まえると、検討事項の最大人数の規定は不要ではないか。少人数で広い部屋を使うのは非効率に感じる。

窓口業務の繁雑化を避け、団体利用を優先するため個人利用の申請は当日の窓口に限定すべきではないか。また、多くの人が使えるよう個人利用は短時間に区切る運用を検討してはどうか。

(天野委員)

個人利用の予約で、事前に電話確認をしていない場合に当日窓口で「空きがない」と言われたら困ってしまう。中央公民館は予約で埋まっている日が多いのではないか。

(事務局)

事前に電話で空き確認をしても、窓口で先約が入る場合も考えられる。中央公民館の日中では1時間のみ空きがある日や活動の少ない曜日もある。

(多田委員)

個人利用を社会教育活動に準じた活動に限定するのか、それ以外も認めるのか。

(事務局)

基本的には使用許可基準に準じて個人利用を認める。

(多田委員)

利用者に伝わりやすい要綱の整備を行っていただきたい。

(事務局)

営利目的や販売等の制約を要綱等に示す予定で、試行中はニーズ把握のため使用目的の記載を求め、実態の把握を検討する。

(長澤委員)

本案は令和 8 年 4 月から試行開始か。

(事務局)

現状では来年度、準備が整い次第開始する予定である。

(長澤委員)

試行期間中の数か月分のデータを審議会で図り、意見を募る必要があると思う。また、船橋市では個人利用の際に部屋の広さに応じた使用料が徴収されるため、本市でも使用料の検討が必要と感じた。

(多田委員)

本案は、登録団体でも利用可能か。

中央公民館は予約が埋まりやすく、試行期間中に十分なデータを集められるか。他館(成田公民館等)でも試行を実施してはどうか。

(長澤委員)

市政モニターアンケートでは、中央公民館のほか利用率の高い公津公民館・成田公民館・遠山公民館でも試行実施してはどうか。

また、公民館側は人数制限を設けない案を提案したいのか。

(事務局)

本格運用の際は、最大人数を設けない方が利用しやすいと考えている。

(小林委員)

当日急に使用したい人と計画的に使用したい人向けの 2 パターンで検討するとよいのではないか。

(重廣副会長)

1 時間のみの個人利用だと、次の団体の予約がある場合に 10 分前入室や片付け等で利用時間が短くなる懸念がある。そのため、1 コマ 2 時間利用を目安に運用するのはどうか。

(事務局)

登録団体でなくとも施設予約システムで部屋の空き状況を確認できる。

(高木会長)

今後、皆様から頂いた意見を基に検討を進めていただきたい。

6. その他

議事事項なし

7. 傍聴

傍聴者 1 名